

# 東京の地下鉄の運営改革会議（第1回）

日 時：平成25年7月30日（火）16:00～17:00

場 所：国土交通省会議室

（合同庁舎3号館8階国際会議室）

## 次 第

### 1. 開会

### 2. 議題

- （1）会議の設置について
- （2）これまでのサービスの一体化の主な取組みについて
- （3）東京の地下鉄の現状と今後の方向性について
- （4）今年度実施予定のサービスの一体化の主な取組みについて
- （5）今後のスケジュールについて
- （6）その他

### 3. 閉会

（配布資料）

#### ○議事次第

- 資料1 …東京の地下鉄の運営改革会議の設置について（案）
- 資料2 …これまでのサービスの一体化の主な取組みについて
- 資料3 …東京の地下鉄の現状と今後の方向性について（案）
- 資料4 …今年度実施予定のサービスの一体化の主な取組みについて（案）
- 資料5 …今後のスケジュールについて（案）

## 東京の地下鉄の運営改革会議の設置について（案）

1. 利用者の視点に立ち、都営地下鉄と東京メトロとのサービスの改善・一体化を推進するため、東京の地下鉄の運営改革会議（以下「会議」という。）を設置する。
2. 会議構成員は次のとおりとする。

国土交通省	鉄道局長
東京都	副知事
	公営企業管理者交通局長
東京地下鉄株式会社	代表取締役社長
3. 会議の事務局は、国土交通省鉄道局と東京都都市整備局とする。
4. 会議の議事内容は、事務局が会議開催の前に調整し決定する。

# これまでのサービスの一体化の主な取組みについて

都営地下鉄と東京メトロでは、サービスの一体化は地下鉄の利用者の利便性向上につながるものと考え、以下のような施策に取り組んできた

## 運賃等

### ○連絡特殊割引

- ・都営地下鉄・東京メトロの相互の乗継ぎ利用者に運賃の割引を実施。
- ・昭和36年6月から開始し、以降段階的に割引額の引上げを行ってきた。

#### 【割引額(平成12年12月以降)】

- ・普通運賃 発駅と着駅を最安経路で結んだ場合の併算額 - 70円

(例) 西早稲田～都庁前 メトロ160円 + 都営170円 - 70円 = 260円

- ・定期運賃 メトロ定期運賃の15% 引き + 都交定期運賃の15% 引き

(例) 西早稲田～都庁前 大人通勤1か月 ※東新宿乗継で計算

メトロ 5,100円 + 都営 5,860円 = 10,960円

(無割引の場合 6,000 + 6,890 = 12,890円、差額1,930円)

### ○共通一日乗車券

- ・平成12年12月から、都営地下鉄・東京メトロ全線が乗り降り自由な一日乗車券(大人1,000円、子供500円)を販売



## ご案内

### ○駅名の統一

・平成元年3月、都営地下鉄浅草線の「江戸橋駅」を「日本橋駅」に変更（東京メトロ銀座線・東西線の「日本橋駅」と駅名を統一）

### ○駅出入口路上案内標識の統一

・平成12年3月から、歩道上に設置するポールタイプの駅出入口標識をトンネルと電車を組合わせた表示に統一



### ○乗換駅の出入口番号の整理

・都営地下鉄と東京メトロの乗換駅の出入口番号を整理  
日本橋駅（平成14年12月）  
日比谷・有楽町駅（平成19年2月）  
上野広小路・上野御徒町駅・仲御徒町駅（平成19年2月）

### ○駅ナンバリング

・平成16年4月から、都営地下鉄・東京メトロの各路線をアルファベット一文字、駅を2桁の番号で表示した「駅ナンバリング」を開始



### ○サインシステムの共通化・改善

・平成18年度以降、都営地下鉄の駅全体の案内サインを東京メトロと統一したデザインに改良

### ○バリアフリー便利帳の共同発行

・平成24年1月から、駅のバリアフリー設備に関する情報が掲載された「バリアフリー便利帳」を共同で発行し、駅にて無料配布を開始



その他  
利便性  
向上  
施策等

- 合同イベントの開催  
・平成24年6～7月、東京スカイツリータウンの開業を記念した共同企画による「地下鉄スタンプラリー」を実施
- 帰宅困難者対策  
・平成24年度、都営地下鉄と東京メトロの全駅に飲料水、簡易マット、携帯用トイレ等非常用備品を配備完了
- 合同訓練の実施  
・平成25年3月、日比谷駅及び東京メトロ有楽町駅において、帰宅困難者対応の合同訓練を実施
- 九段下駅の乗換改善  
・平成25年3月、改札口を出ずに都営新宿線と東京メトロ半蔵門線の乗り換えを可能とするため、ホーム及びコンコース階の一部壁を撤去
- 乗換駅の追加指定  
・平成25年3月、都営新宿線岩本町駅と東京メトロ日比谷線秋葉原駅を乗換駅に追加指定
- 改札通過サービスの導入  
・平成25年3月、都営大江戸線・三田線春日駅と東京メトロ丸ノ内線・南北線後楽園駅、都営新宿線と東京メトロ有楽町線・南北線の市ヶ谷駅について、同駅をご利用のお客様が双方の駅構内を通過して目的地近くの出入口を利用できるサービスを開始
- 駅間における通信環境の整備  
・平成25年3月、都営地下鉄と東京メトロの全線での携帯電話利用サービスを開始  
・WiMAX(高速通信サービス)利用サービスについては、都営地下鉄は平成24年12月(他社管理駅を除く。)、東京メトロは平成25年5月に全線でサービスを開始



# 東京の地下鉄の現状と今後の方向性について(案)

## ◎主としてサービスの改善に関する項目

項 目	現 状	今後の方向性
<p>バリアフリー化</p>	<p>○1ルート整備率については、平成24年度末時点で、都営地下鉄は97%、東京メトロは86%となっている(都営地下鉄は平成25年度、東京メトロは平成26年度中に100%となる見込み)。</p> <p>○また、多機能トイレの整備率については、平成24年度末時点で、都営地下鉄は100%、東京メトロは91%(平成27年度に大規模改良中の一部の駅を除いて100%となる見込み)となっている。</p>	<p>○都営地下鉄と東京メトロの乗継時のバリアフリー化など、更なるバリアフリーの充実について検討を進める。</p>
<p>ホームドア整備</p>	<p>○ホームドア整備率は、平成25年6月末時点で、都営地下鉄は61%、東京メトロは45%(現在着手している有楽町線、銀座線の整備が完了した際(平成30年度予定)には56%)となっている<sup>(※)</sup>。</p> <p>(※)整備済の路線 …(都営地下鉄)三田線、大江戸線 (東京メトロ)南北線、副都心線、丸ノ内線 千代田線(北綾瀬～綾瀬間)</p> <p>整備中の路線 …(東京メトロ)有楽町線、銀座線</p> <p>未着手の路線 …(都営地下鉄)浅草線、新宿線 (東京メトロ)千代田線、日比谷線、半蔵門線、東西線</p>	<p>○相互直通運転の相手方との調整等を進め、ホームドアの更なる整備について検討を進める。</p>

項 目	現 状	今後の方向性
<p>混雑の緩和 (遅延防止)</p>	<p>○地下鉄の混雑率は、列車運行本数の増加等の混雑緩和対策を進めてきた結果、両地下鉄とも緩和傾向にある<sup>(※)</sup>。</p> <p>(※)混雑率の状況(平成12年度→平成23年度)  都営地下鉄 浅草線(128%→113%)、三田線(137%→145%)、新宿線(152%→150%)、大江戸線(134%→155%)  東京メトロ 日比谷線(173%→153%)、銀座線(173%→156%)、丸ノ内線(160%→152%)、東西線(197%→199%)、南北線(96%→149%)、有楽町線(176%→167%)、千代田線(192%→177%)、半蔵門線(171%→161%)  (注)三田線、大江戸線、南北線については、平成12年に延伸が行われている。</p> <p>○東京メトロ東西線については、周辺開発の進展などの影響により、朝の混雑率は依然として199%(体がふれあい相当圧迫感がある状態)と高い水準にあることから、南砂町駅や木場駅の大改良、都心部における折り返し線整備の検討などを進めている。</p> <p>○都営地下鉄勝どき駅、東京メトロ豊洲駅などは、再開発などにより利用客数が急増しており、現在、混雑緩和のための駅の改良が行われている。</p>	<p>○駅・設備等の改良、ソフト施策などによる混雑緩和・遅延防止対策について検討を進める。</p>
<p>運行時間の拡大</p>	<p>○都営地下鉄、東京メトロともに、山手線の拠点駅への終電時間は0時台となっている。</p>	<p>○拠点駅から郊外方面への終電・深夜バス等とのより円滑な接続を進める観点から、安全を確保しつつ、運行時間の拡大等の可能性について検討を進める。</p>
<p>防災対策の推進</p>	<p>○両地下鉄とも首都直下地震等に備え、高架橋柱等の耐震化を進めている。</p> <p>○両地下鉄とも、災害対策用備蓄品を各駅に配備するとともに、非常災害時に緊急情報を放映するため改札口へのディスプレイの配置を進めている。</p> <p>○両地下鉄とも水害に備え、対策を進めている。</p>	<p>○災害時における利用者の安全確保や地下鉄機能の維持・早期復旧に向けて、更なる防災対策を連携して取り組む。</p>

## ◎主としてサービスの一体化に関する項目

項 目	現 状	今後の方向性
乗継改善等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都営地下鉄と東京メトロの乗換駅は現在29駅となっている。うち岩本町駅・秋葉原駅間については、平成25年3月に乗換駅の追加指定を行った。</li> <li>○改札通過サービスについて、平成25年3月に春日駅・後楽園駅、市ヶ谷駅の2ヶ所で導入した。</li> <li>○乗継改善のための壁の撤去について、平成25年3月に九段下駅で行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各乗換駅において地下鉄利用者の乗継等の不便解消の可能性を検証し、<u>更なる乗継改善等の洗い出しを進める。</u></li> <li>○都営地下鉄の路線同士、東京メトロの路線同士の駅の乗継改善等の可能性についても検討を進める。</li> </ul>
サインシステムの統一等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成16年4月に、駅ナンバリングを実施するとともに、都営地下鉄と東京メトロの統一路線図を作成した。</li> <li>○平成18年度以降、駅全体の案内サインについて、デザインの統一化を進めている。</li> <li>○平成24年1月に、駅のバリアフリー設備の一覧等を掲載したハンドブックを共同で作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者がサービス一体化を実感できるよう、<u>更なるデザインや情報提供の仕様の統一等の可能性について、検討を進める。</u></li> </ul>
運賃施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初乗り運賃について、都営地下鉄は170円、東京メトロは160円となるなど、両者の運賃体系は異なっている。</li> <li>○都営地下鉄と東京メトロの乗継割引については、昭和36年に導入(10円)以降拡充され、平成12年以降は70円となっている。</li> <li>○また、平成12年より両地下鉄の共通一日乗車券(1000円)を発売中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両地下鉄を乗り継いだ際の運賃の割高感の軽減を図るため、<u>更なる運賃の乗換負担軽減策の可能性について検討を進める。</u></li> </ul>

◎主として運営の連携に関する項目

項 目	現 状	今後の方向性
人的交流	○本年3月には、両地下鉄合同で帰宅困難者対応訓練を実施するなど、相互の交流が進められている。	○両地下鉄が連携し、サービスの改善・一体化に取り組むため、 <u>職員の人事交流や合同研修をはじめとした、両地下鉄間の人的交流の拡大について検討を進める。</u>
利用者への調査等の共同実施	○両地下鉄とも、利用者への満足度調査の実施やモニター制度の導入により、サービスの向上に努めている <sup>(※)</sup> 。 (※)都営地下鉄:「お客様満足度調査」及び「都営交通巡回モニター」を実施。 東京メトロ:「お客様満足度調査」及び「東京メトロお客様モニター」を実施。	○サービスの一体化を推進するため、 <u>利用者への調査等の共同実施について検討を進める。</u>
共同研究の実施	○地下鉄の安全安心を確保するための技術開発について、都営地下鉄と東京メトロで意見交換を実施。	○地下鉄の施設管理等に必要な技術の <u>調査研究の共同実施について検討を進める。</u>

# 今年度実施予定のサービスの一体化 の主な取組みについて(案)

## 改札通過サービスの追加実施

六本木駅(都営大江戸線・東京メトロ日比谷線)及び門前仲町駅(都営大江戸線・東京メトロ東西線)において改札通過サービスを開始する。(六本木駅は本年9月27日、門前仲町駅は今年度末開始を予定)

(別添1、2参照)

## 人事交流の実施

### 目的

・都営地下鉄職員と東京メトロ社員の育成や視野の拡大に役立てるとともに、サービスの改善・一体化に取り組むため、両地下鉄間の人事交流を実施する。

### 当面実施する人事交流の内容

- ・まずは、課長級の相互派遣を実施
- ・業務内容は、サービス一体化施策検討業務、バリアフリー設備、乗換設備等駅施設改良関連業務等を予定
- ・平成25年9月1日実施(予定)

(別添1) 六本木駅改札通過サービスイメージ

大江戸線六本木駅利用の  
お客様が日比谷線の  
ホームを介して構内を通過できる

日比谷線と  
大江戸線の  
乗換ルート

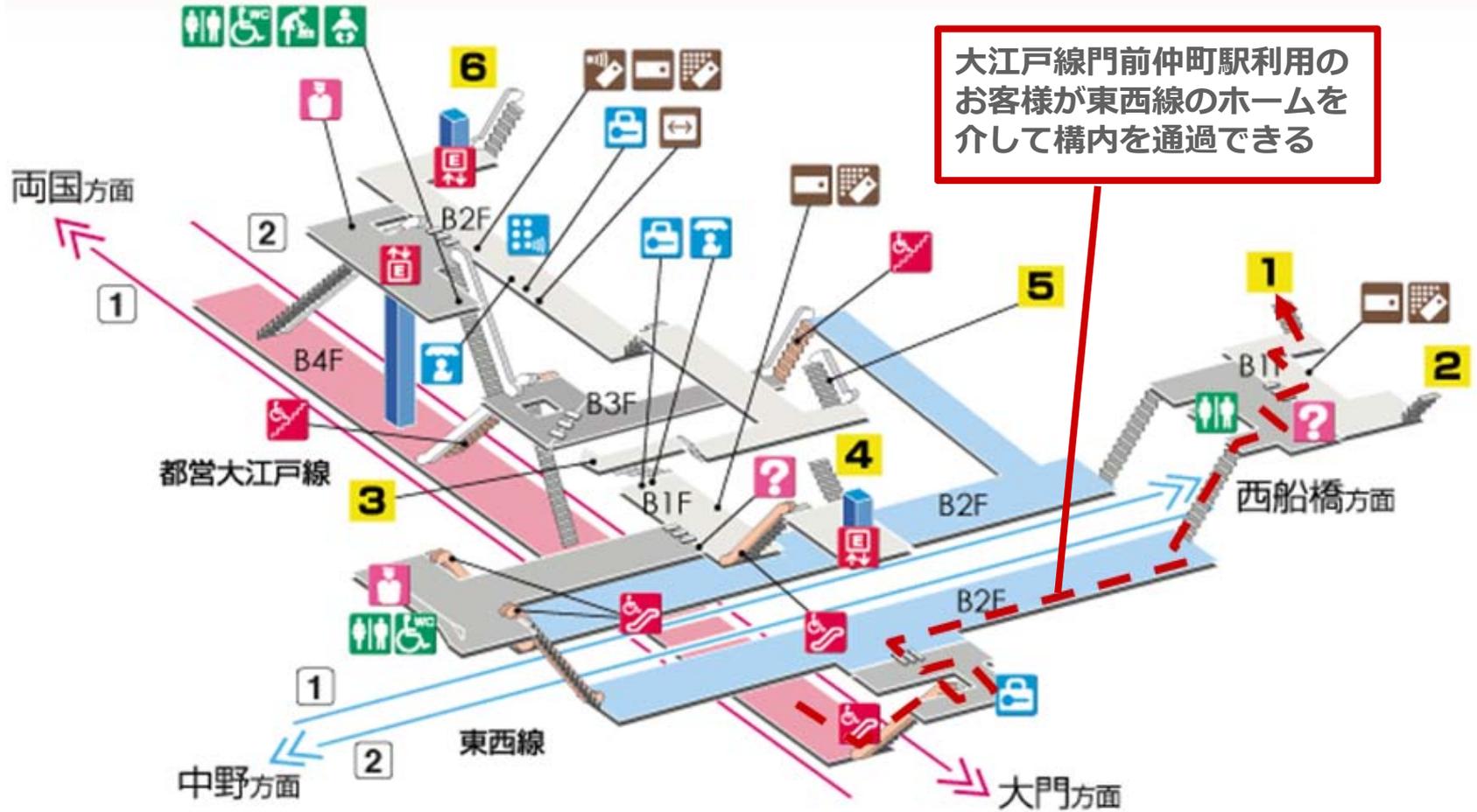


六本木ヒルズ側

大江戸線連絡口

大江戸線  
改札口

(別添2) 門前仲町駅改札通過サービスイメージ



## 今後のスケジュールについて（案）

- 東京の地下鉄のサービスの改善・一体化を更に図るため、資料3における「今後の方向性」を踏まえ、今後の取組み方策の検討を進める。
- 今年度中を目途に、実務者間で検討を進めたうえで、東京の地下鉄の運営改革会議において、今後の取組み方策について整理する。
- その後、方策の実施状況のフォローアップや更なるサービスの改善・一体化の検討等を行う。